

氏名： 戸谷 陽子 (TOTANI Yoko)
 所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
 学位： 文学修士 (M.A.in English Literature) / M.F.A.in Theatre Arts (芸術学修士)
 職名： 准教授
 専門分野： 舞台芸術論、パフォーマンス研究、アメリカ演劇、
 アメリカ文学、文化政策、比較演劇
 Theatre Theory, Performance Studies, American Theatre,
 American Literature, Cultural Politics, Comparative Drama
 E-mail： totani@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

舞台芸術論/パフォーマンス研究/アメリカ演劇/文化政策/比較演劇論
 Performing Arts Theory / Performance Studies / American Theatre /
 Cultural Politics / Comparative Drama Studies

◆主要業績

総数 (5) 件

- ・「冷戦期の演劇：ミラー、ウィリアムズの描くセクシュアリティの奇妙なねじれ」アメリカ文学会東京支部シンポジウム『冷戦下の表象文化空間再考—国家・ジェンダー・イデオロギー』司会および講師 (2007年6月31日慶應義塾大学)
- ・Dogugaeshi: Basil Twist' s Experiments with the Traditional Japanese Puppet Theatre Technique (2008 Comparative Drama Conference at Radison Hotel Westside in Los Angeles, CA, USA, March 26, 2008)
- ・(翻訳)「不可能なることに正義を」アン・キュビリエ著
『国家/ファミリーの再構築 人権・私的領域・政策』(ジェンダー研究のフロンティア 第1巻) 所収 pp.55-68
- ・二十世紀末以降アメリカ舞台芸術の理論と実践における文化ポリティクスとグローバル化 (科研費報告書) 総頁数 107
- ・「久保文明・有賀夏紀編著『シリーズ・アメリカ研究の越境 第4巻 個人と国家のあいだ〈家族・団体・運動〉』(アメリカ学会会報第15号 p.6)

◆研究内容 / Research Pursuits

1. 科学研究費助成の初年度研究「アメリカ演劇の理論と実践におけるリベラリズムと民主主義の問題：冷戦以降の再検討」に着手、戦後アメリカの文化政策とセクシュアリティの配備という観点から調査・研究を進めた。また、日本アメリカ文学会東京支部シンポジウム『冷戦下の表象文化空間再考—国家・ジェンダー・イデオロギー』を企画、司会および講師として「冷戦期の演劇：ミラー、ウィリアムズの描くセクシュアリティの奇妙なねじれ」を発表。
2. 長年の研究課題インターカルチュラリズムの演劇についての考察を Dogugaeshi: Basil Twist' s Experiments with the Traditional Japanese Puppet Theatre Technique にまとめ学会発表。(2008 Comparative Drama Conference)
3. さらに本学 COE ジェンダー研究のフロンティア学内研究員として、プロジェクト D の企画・運営を含む研究活動に携わり、多くの研究者と専門分野を超えて学際的な交流をはかった。

Topics of research conducted and titles of conference papers are:

- 1.(Panel Chair and Panelist) Symposium: Reconsidering Representation during the Cold War Era: Nation, Gender, and Ideology (Tokyo American Literature Society, June 2007, at Keio Gijuku University)
- 2.(Conference Paper) Dogugaeshi: Basil Twist' s Experiments with the Traditional Japanese Puppet Theatre Technique (2008 Comparative Drama Conference, March 2008, at Radison Holel Westside in Los Angeles, CA, USA)
- 3.(Translation) Doing Justice to the Impossible: Gender, Testimony and Human Rights by Anne Cubilie, in Nation States/Reconstructing Family: Human Rights, Private Sphere, and Politics, ed. Tamie Kaino(Fronteers of Gender)

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. 学部教育：全学部対象コア科目英語、基礎ゼミ、英語圏言語文化コース学生対象の専門科目（英語圏テキスト講読、英米文学演習）を担当、パワーポイントなどを使用して視聴覚教材を作成し、立体的な授業を心がけている。このほか卒論指導として3名の学部学生の個人指導を担当。
2. 大学院教育：アメリカ演劇関連の科目（米文学演習）を担当、また修士論文の個人指導および博士後期課程学生の個人指導。
3. その他、語学センター委員として、全学部の英語科目のオリエンテーション、クラス編成、とくに履修相談・指導に膨大な時間と労力をかけている。
4. 言語文化学科英語圏言語文化コース3年生担任として、コースの教務連絡、留学生の履修や学生生活に関する相談・指導。

Conducted lectures and classes in the 07-08 academic year include:

1. Intermediate English for freshmen and sophomores.
2. Hamlet Project (a seminar course for freshmen).
3. English and American Literature Seminars for undergraduate English major students.
4. Seminars for graduate students to study American theatre and its theory.

In addition to teaching, the following contributions were made:

1. Supervising B.A. and M.A. theses.
2. Consulting and advising undergraduate students taking Core Curriculum English classes.
3. Coordinating Core Curriculum English Program and carrying out orientation programs for freshmen as well as senior students.
4. Supervising junior English major students as their homeroom teacher.

◆研究計画

本年度より4年間、科研費助成により「アメリカ演劇の理論と実践におけるリベラリズムと民主主義の問題：冷戦以降の再検討」と題する研究を行う。本年度は戦後アメリカの文化政策とセクシュアリティの配備という観点から調査・研究を進めており、今後は「政治的リベラリズムの演劇：マッカーシイズムとアメリカニズム」「文化的リベラリズムの芸術家たち：前衛演劇とマイノリティ演劇」「民主主義と共同体の演劇：グローバルとローカル」をテーマに1年ごとに調査・研究を行い、冷戦期以降のアメリカ舞台芸術における意識の分布図の変化を考察、総括する。さらにこの研究を発展させ、グローバル化の進む表象文化空間における表象のポリティクスを舞台芸術を対象に行う予定。

共同研究の可能性としては、「文化芸術助成財団・研究機関等と舞台芸術と文化政策の実践的共同研究」「各国演劇研究者等と舞台芸術の国際コラボレーションに関する実践的共同研究」といった、実践および文化政策等社会的に還元しうる研究を目指したい。

◆メッセージ

今日IT化、グローバル化の時代にあって、知や情報を手にすることは容易に可能になりました。したがって、大学でそれ自体を学ぶことは、以前と比べるとさして重要な価値ではなくなったといえるかもしれません。みなさんには、インターネットで検索して得られる知や情報ではなく、知の集積する大学という空間で、それをいかに有効に活用するか、そしていかに発信するか、実際の技術的な訓練はもちろん、そのための深い思考力と想像力を鍛錬してほしいと願っています。グローバル化の時代、さまざまな立場や価値観が拮抗する社会にあって、わたくしたちが知識や情報のみでは解決できない複雑な問題に直面する時に、この思考力と想像力が、そしてそれを備えたみなさんのような人材が必要とされていると思うからです。